



栗 山



学 校 だ よ り
学校運営協議会だより

校訓：誠実・自律・調和

令和7年4月18日

4月号

八王子市立浅川中学校



『もっと優しく、もっと強く』浅川中

～人と人との関わりから学び、社会に貢献できる生徒の育成～

校長 市場 陽一郎

初沢の山、栗山の木々がやわらかなパステル色の新芽を身にまとい、優しく浅川中の校舎を包み込み、新たな季節の到来です。そして、本校は新入生139名を迎え、395名の生徒、43名の教職員で落ち着きの中にも活気のあるスタートを切りました。入学式では新入生の緊張した表情とは対照的に進級した上級生は成長し、その自律した姿から「誇れる上級生」となる自覚と決意を感じました。新入生はきっと上級生の姿から素直に学び、成長して行くことでしょう。

今の浅川中は、生徒と教職員が保護者、地域の方々に支えて頂きながら、穏やかに学び合える学校となっています。そして何より、学年が上がれば上がるほど立派に成長し「憧れられる先輩」として卒業して行くという流れが出来てきています。この「新たな伝統」を受け継ぎ、浅川中学校で学んだことを全ての生徒が誇りに思うように育ててくれることを期待しているところです。

本校の目指す生徒像は『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる人』であり、全ての生徒が人と人との関わりを大切にする優しさを持ち仲間と共に楽しく学び合い、明るく伸びやかに学校生活を送り、良き社会の構成者となることを目指しています。また、多少の困難も、「校訓の誠実さと自律、調和の心」で乗り越える強さを身につけてほしいと思います。合言葉は『もっと優しく、もっと強く浅川中』です。そのために今年度も、自律した主体的な生徒の育成と、優しく学び合う授業づくりに取り組みます。そこでまず、伝統の『みそあじは運動』の徹底を具体的な行動目標とします。「み」みだしなみ、「そ」そうじ、「あ」あいさつ、「じ」時間、これらは校訓にある自律の心と周囲への配慮や思いやりのある優しい行動と捉えます。「は」話を聴くことも相手を認め、思いを受け止める優しい行為です。特に「話を聴く」を、共に学ぶ学校で最も大切にすべき事として、今年度も『聴き合う力の育成』を指導の重点に置きました。この自律した優しさと少しの勇気に裏打ちされた『聴き合う』ことが本校の学校風土、特色となるように意識付けていきます。

そしてもう一つ本校が大切にしていることは、如何にして生徒たちに当事者意識を持たせ、考え、想像し、行動させるかということです。生徒たちが自分事としてものごとを捉え、「責任ある行動（自律）」や「違いを認めて学び合うこと（調和）」を自ら実践する力を身につけたとき、社会に貢献できる人間へと成長していきます。授業や学校行事、学級活動、委員会、部活動などあらゆる場面で自分ならどう考え、どう行動するのかを生徒に問いかけながら教育活動を行います。様々なことを自分事として捉え、仲間と対話し学び合い、深く考え、自ら行動するための「学び合う授業づくり」と「自己指導能力育成」を学校経営の柱として取り組みます。

保護者、地域の皆様、これまでも大変お世話になってまいりました。今年度も浅川中の生徒たちが明るく、真っ直ぐ伸びて行けるように、温かい見守りとご支援を何卒よろしくお願いいたします。

保護者、地域の皆様、これまでも大変お世話になってまいりました。今年度も浅川中の生徒たちが明るく、真っ直ぐ伸びて行けるように、温かい見守りとご支援を何卒よろしくお願いいたします。



第79回入学式、上級生の歓迎の合唱を聴く新入生



はじめに

目指す生徒像は「人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒」である。本校の校訓にもある自律と調和を意識し、人への優しさを大切に、関わって学び成長する生徒を理想としたい。現在、「誇れる上級生」と「学ぶ下級生」が良いサイクルで回り、学校全体が成長しつつある。その中で、更に他を認めるのと同時に自分事としてものごとを考え、主体的に課題を解決する力を生徒に求めたい。そのために「自己指導能力育成」と「学び合う授業」づくりに学校挙げて取り組みたい。そして生徒、保護者、地域から信頼され応援される『共に学ぶ、もっと優しい学校』という学校風土が定着するように努力を続ける。

★校訓★ 『誠実』・『自律』・『調和』

1 教育目標

自ら、確かな学力、豊かな人間性や社会性、たくましい体を主体的・創造的に育み、その能力等を、自己実現及び社会の発展のために発揮できる生徒を育成する。

◎ 自ら学び考え行動する生徒 ・ ・ ・ ・ ・ 【今年度の重点】

- 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

2 目指す生徒像

『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒』

- ◎自律と調和を意識し、人への優しさを大切にする生徒
- ◎関わって学び、成長する生徒
- ◎常に当事者意識を持ち、自分事としてものごとを考える生徒

3 目指す学校像

『共に学ぶ、もっと優しい学校』 地域運営学校として保護者、地域に応援される学校

学校経営の基本方針・・・『共に学ぶ、もっと優しい学校』を目指す。

地域に支えられ、穏やかに学ぶ生徒が多いという本校の特色（強味）をいかし、共に学び、高め合う学校創りを目指していく。具体的な方策として「学び合い、聴き合う授業づくり」を進める。生徒一人一人の学力を保障することはもちろんであるが、互いに認め合い高め合うという人権尊重の精神を毎日の授業を通して浸透させることにより、いじめ、不登校はもとより生活指導上の問題発生を予防する。同時に、自らの課題や特性と向き合い、より前向きな気持ちで生活する「強さ」を生徒たちに求めたい。今後も教職員同士や保護者、地域関係者との交流での「学び合い」により教職員の指導力向上や地域との連携推進を図る。

今年度の指導の重点

教育目標から 自ら学び考え行動する生徒の育成

『学び合う授業づくりと、優しく自律した主体的な生徒の育成』

1. 聴き合い、学び合い、自ら成長しようとする生徒の育成のために

今年度も「話を聴く」力、姿勢を身につけさせ、コミュニケーション能力の向上や対話的な学びや共働的な学びにつなげる指導を強く意識して取り組む。

◎自律のための自己指導能力育成と温かい人間関係

- ・「みそあじは運動」を優しい行為として捉え、全教職員が共通認識を持ち指導支援する。

「み」自律を促し規範意識が高め、誰もが安心して過ごせる優しい学校を目指す。言葉遣い、場に応じた行動もみだしなみ。

「そ」そうじは誰かのために頑張る優しい行動。4人班で責任ある行動を。

「あ」あいさつは相手を認め、思いを伝える優しい行為。同時に、あいさつは主体的で前向きな自分をつくる行動であることを意識させる。

「じ」時間は皆のもの。時間を守るのは周囲への優しい行為。ノーチャイム始業の徹底。

「は」話を聴くことも相手を認め、思いを受け止める優しい行為。聴き合う関係づくり。

- ・生徒理解の上に立った、生徒の人格を大切にする温かい指導、支援を徹底する。
- ・教師が伴走者やファシリテーターとして生徒の自己決定を促し指導、支援を行う。
- ・「生徒理解の時間」を設定し、いじめ、不登校対策（学習支援を含む）を全教職員で行う。
- ・自己肯定感を高め、前向きな学校生活を送らせるために、『もっと優しく、もっと強く浅川中』を合言葉に、授業、学校行事、特別活動や部活動などあらゆる場面でリーダー育成とフォローアップを行う。特に、生徒会活動を学校全体の主体的な活動につなげていく。

◎特別支援校内委員会で生徒への支援の方向性を共有確認し、丁寧に指導支援する。同時にくりやま教室との連携で支援の必要な生徒を支えていく。

2. 学び合い、高め合う魅力ある授業づくり <「学びの共同体」の理念を基に>

◎ グループ学習を柔軟に取り入れ、協働的な魅力ある授業を展開する。

- ・教員の授業力を向上させるため、校内教員研修の充実を図り、年6回の授業研究協議会を持つ。
- ・積極的に放課後学習等を行い、学力に不安をもつ生徒を支援し学習意欲を高める。

◎ 学び合い、聴き合う関係づくり（全教室4人班男女市松模様座席等）により、生徒の居場所がある優しいクラスをつくり関わる力を身につけさせ不登校やいじめを防止する。

3. 地域運営学校として『地域から信頼される学校』に＜社会に貢献する意識の育成＞

◎学区に高尾山を持つ学校として、日本遺産高尾山学習に取り組む

- ・三年間の総合的な学習の時間を通して、日本遺産高尾山学習に取り組み、郷土を知り、考え、発信できる生徒を育て、故郷に愛着と誇りをもたせる。

◎学校運営協議会、青少年対策浅川地区委員会との連携

- ・生徒に積極的にボランティア活動への参加を促し、地域の方々との関わりの中から学ぶ。

4. GiGA スクール構想、ICT 機器活用

◎一人一台PCの積極的活用

- ・教科の授業や様々な教育活動の中でPC活用を実践する。
- ・補充的学習や個別支援でのPC活用を実践する。

◎ホームページ、デジタルサイネージの充実と発信、校務の効率化

- ・デジタルサイネージの充実による情報発信を行い、生徒の自己肯定感を高める。
- ・学校ホームページにより、地域へ学校情報を発信し開かれた学校にする。

5. 働き方改革を意識した教育活動・部活動の充実

- ・校務の偏りを減らし平準化を図るOJTで効率化を図る。定時退勤日を毎月設定。
- ・全ての部活動に複数顧問を配置し、生徒の活動の保障と教員の負担の軽減を図る。
- ・部活動を通しての「人間形成」を意識し、顧問と生徒の信頼関係のもとに活動を行う。
- ・八王子市部活動改革や地域移行へ向けた具体的な取り組みを進める。

令和7年度 浅川中学校教職員

校 長	市場 陽一郎	経 営	美術科	
副校長	竹中 直	経 営	美術科	(美術部) (生物部)

1 学年	A 組担任	福嶋 朋之	主任教諭	数学科	●1 学年主任 バレーボール部
	B 組担任	田部 翔太	教 諭	音楽科	吹奏楽部
	C 組担任	武井 美怜	教 諭	国語科	●司書教諭 テニス部
	D 組担任	篠田 宇行	主幹教諭	社会科	●生活指導主任 サッカー部
	副担任	山本 航大	教 諭	英語科	バスケットボール部
	副担任	柴崎 浩一	主任教諭	理科	生物部
	学年付	圓尾 亜未	養護教諭	養護	卓球部

2 学年	学年主任	越後谷 太郎	主幹教諭	社会科	●2 学年主任 ●学習進路部主任 陸上競技部
	A 組担任	神宮寺 航	教 諭	保健体育科	サッカー部 レクスボ部
	B 組担任	川崎 奨生	教 諭	数学科	バスケットボール部
	C 組担任	佐々木 礼奈	教 諭	英語科	ボランティア部 E てらこや部
	D 組担任	谷合 夏佳	主任教諭	保健体育科	バスケットボール部
	副担任	中島 慎太郎	主幹教諭	理科	●教務主任 吹奏楽部
	副担任	依田 順子	主任教諭	数学科	E てらこや部 (陸上競技部)

3 学年	A 組担任	村上 耀亮	主任教諭	技術科	バスケットボール部
	B 組担任	小山内 繁	主幹教諭	美術科	●3 学年主任 美術部
	C 組担任	白羽 陸	教 諭	社会科	テニス部
	副担任	立花 正恒	教 諭	英語科	剣道部 (バレーボール部)
	副担任	松枝 香久美	主任教諭	国語科	ハンドメイド部
	副担任	石塚 文也	教 諭	数学科	サッカー部 E てらこや部

特別支援教室 くりやま	石井 麻佳	主任教諭	美術科	●くりやま教室主任 ハンドメイド部 レクスボ部 (剣道部)
	田口 出	主任教諭	社会科	野球部
	伊藤 結菜	教 諭	国語科	テニス部 レクスボ部
	若張 寛大	教 諭	数学科	バレーボール部 レクスボ部
	岡本 和樹	教 諭	保健体育科	野球部 卓球部
	山浦 与帆	教 諭	保健体育科	陸上競技部
	財前 吉彦	非常勤教員	国語科	ボランティア部
特別支援教室専門員	谷 淳子	専門員		

講 師	佐藤 悦子	国語科
講 師	愛甲 尚美	国語科
講 師	樋口 健一	数学科
講 師	小鷹 文一	数学科

講 師	高城 奈那子	理科
講 師	大神田 徳子	家庭科
講 師	浅野 和也	英語科

都事務職員	栗田 知美	事務主任
市事務職員	鈴木 美絵	事務職員
用務主事	浅岡 寿生	用務主任
副校長補佐	山田 千晶	

学校司書	岡嶋 敦子
スクールカウンセラー	鈴木 麻里
スクールサポートスタッフ	関口 加代子

学校運営協議会	会長：佐藤 ますみ				
	委員：佐戸 博	柳澤 則子	遠藤 由起子	洲上 明美	本堂 敦子
	小尾 良二	伊藤 裕子	林 美里	市場 陽一郎	

〈転出〉

小川 真佐子	都事務職員	八王子市立第七小学校
末光 真之	主任教諭	八王子市立いずみの森義務教育学校
酒井 良樹	教諭	東久留米市立南中学校
高田 鮎子	教諭	府中市立第五中学校
後藤 宏和	教諭	八王子市立第七中学校
岩本 岳朗	教諭	板橋区立志村第四中学校

〈転入〉

田口 出	主任教諭	府中市立浅間中学校
福嶋 朋之	主任教諭	大島町立第二中学校
山浦 与帆	教諭	立川市立立川第五中学校
〈新任〉		
石塚 文也	教諭	
若張 寛大	教諭	
山本 航大	教諭	